

多摩センターのまちづくり

～（仮称）多摩センター地区まちづくり方針の策定に向けて～

本誌の主旨

多摩センターのありたい姿を考える

“まちづくり”を起点とした新たなまちのつくり方

約40年前、当初最先端の都市基盤が整備された多摩センター。自然環境とともに、公共・商業・企業等が集積した多機能型都市は、開発から時が経過し、衣、食、住、遊が充足したまちとして成熟した一方で、ライフスタイルの多様化、環境問題や技術革新など複合的に問題がからみあい、単純な機能更新ではなく、多様なまちの利用主体とこれからの多摩センターの価値やあり方を考えていく必要が出てきています。ホテル閉館の一方で公共施設のリニューアルなど、まちの変化が続くなか、2020年におこった新型コロナウイルス感染症の拡大により、ライフスタイルも分散化・多様化し、“まち”に求める価値も変わってきました。そのギャップに対するひとつの試みとして、「まちづくり」と称したまちとつかい手の接点となる活動を、令和4年度からスタートしました。活動を起点に、少しずつではありますが、「こんなことやってみたいかった」といった「まちの声」が聞こえはじめています。令和5年度以降、都市計画や道路の利活用に関する本格的な検討が開始します。現在まちの声を集めながら10年、20年先のまちのありたい姿を考えています。皆さんも、まちをどうつかうかを考える場『多摩ラボ（仮称）』や実際にやってみる場『社会実験』に参加してみませんか。

Point1

新たなまちのつくり方

「まちづくり」を起点とした
“まちのつくり方”

P1

Point2

令和4年度活動と
「まちづくり」の方向性

まちの声の起こりから
走り出した「まちづくり」

P2

Point3

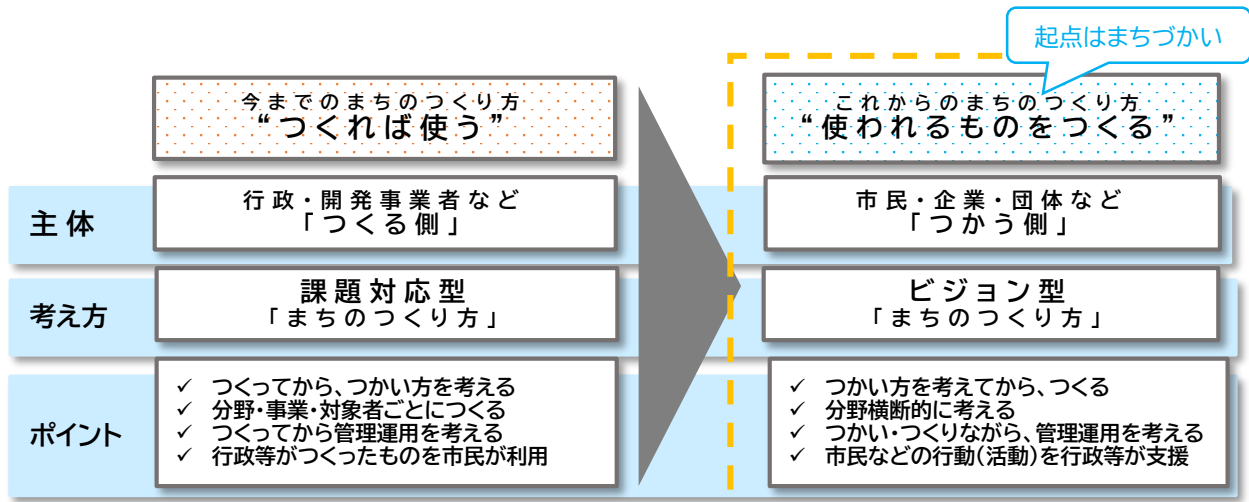
令和5年度からの動き
「つかう」と「つくる」をつ

なく。「つかう」を活性する
場「多摩ラボ」開設

P7

Point1

「まちづくり」を起点とした 新たなまちのつくり方



まちづくりを起点とした新たなまちのつくり方では、まちでどのように過ごし、どのようにつかいたいのか、まちの声をもとに「ありたい姿(=ビジョン)」を描き、つかい方の試行錯誤を繰り返しながら、行政の施策を考えていきます。

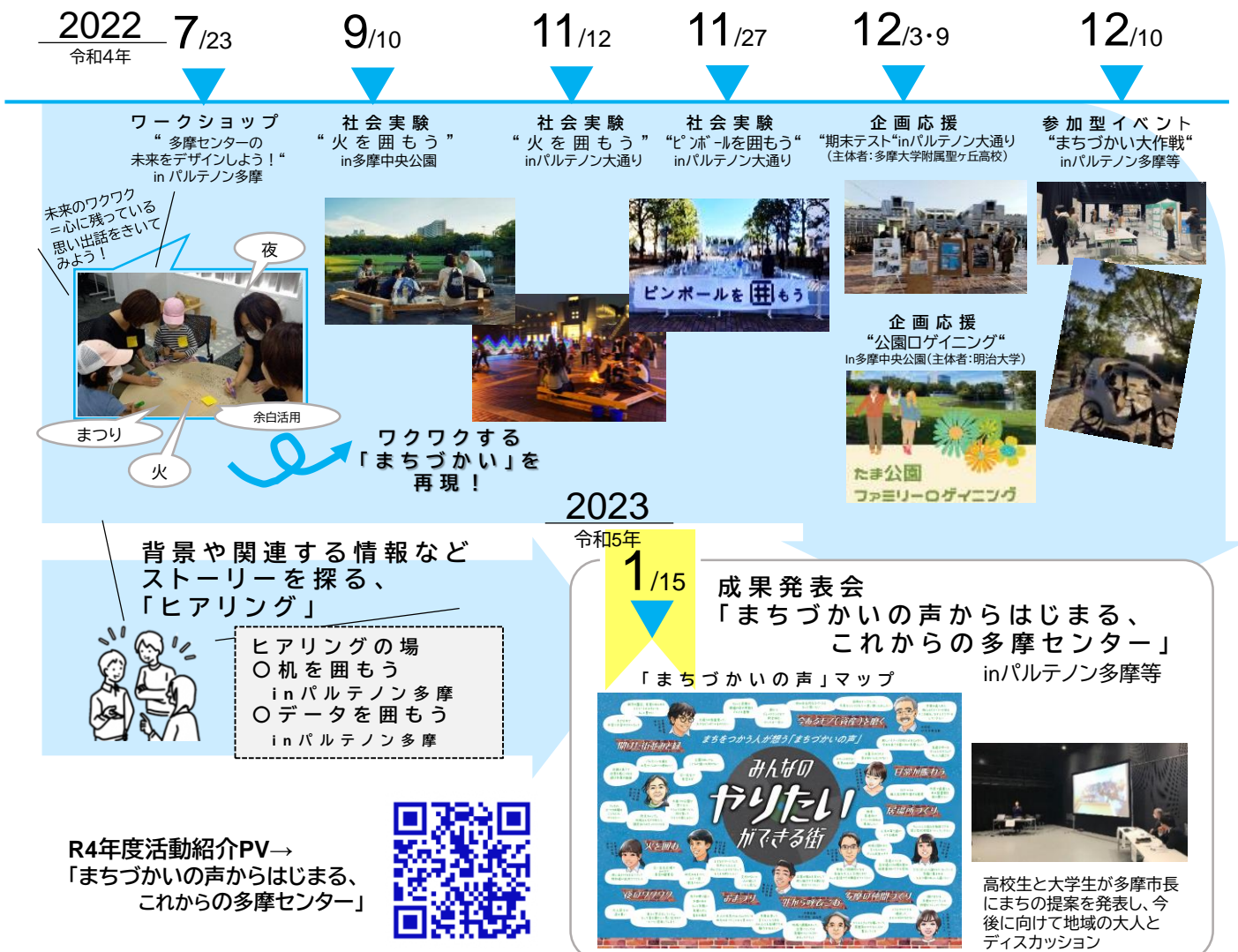
Point2

～まちの声を聞きました！～ 令和4年度活動と「まちづかい」の方向性

令和3年度、市は、パルテノン大通りで開催されたマルシェにあわせ、多摩センターを訪れたひとに対し、まちの満足度アンケートを実施しました。その結果、暮らしやすさの好評価の一方で、「街としての目的」や「ワクワク感」「利用すること」への課題や不足の声が多く挙げられました。

このまちでどう過ごしたい？ワクワクする「まちづかい」は？

まちのありたい姿を考えるにあたり、新たな発想を得るため若手担当者を多摩市役所庁内公募により集め、ワーキングを設置しました。また、多摩センターのステークホルダーの若手にも活動に参加してもらい、多摩センターの未来デザイン検討委員会(仮称)(以下、「検討委員会」として活動をスタートしました。検討委員会では、まちの課題や不足として挙げられた街に来る目的やワクワク感をどのようにすればつくれるのか、まちづかいの社会実験などを通し、まちの声を集めました。



まちづかいの声をもとにしたシーンはP4へ

どんなまちに居続けたい？～立地企業意見交換会～

令和4年8月、多摩センターに立地する企業との意見交換を行いました。
「10年、20年先を見据え、企業・商業施設が居続けたいまち」をテーマのひとつとしたところ、

- ✓ 災害に強い、緑が多い、交通アクセスなど都市基盤の良さの維持・向上
- ✓ 交通インフラの変化、インバウンドの回復、研修方法の変化等、今後の動向を踏まえ、まちの魅力(宿泊施設や魅力ある店舗など買い物価値の向上へ期待)の向上が必要

といった意見ができました。

どんな風に道路をつかっている？～遊歩道の利用実態調査～

令和4年度、市は多摩センター駅周辺の遊歩道の利用実態について市民3,000人を対象にアンケート調査を行いました。
令和5年度に、このアンケート調査の回答をもとに、市民ワークショップなどを通して、より自由な遊歩道の利活用を実現する「歩行者と自転車の安全な走行ルール」を考えていきます。



どんな風に公園を使いたい？～パークライフショー～

令和5年3月に3回目を迎えたパークライフショーは、多摩中央公園を市民がより積極的に関わり、多様なつかい方や過ごし方ができる環境づくり「プレイスメイキング」を目的として行った社会実験です。令和7年1月公園改修以降の活用を試行をし、パークライフショーを通じ、市民や公園内施設などが連携し多摩センターエリアの活性化につなげていきます。

「まちづくり」の方向性

多摩センターで実施したアンケートや立地する企業との意見交換を通し、多摩センターの街並みへの満足度が高い一方で、まちのワクワク感や訪れる目的に課題があることがわかりました。令和4年度の活動成果から、これからのまちのつかい方の方向性は、「暮らしやすい街並み」を維持・継続を考えながら、「多様なやりたいを活性化させる」つかい方を受け入れることが大切です。

暮らしている人も訪れる人もいつもワクワクするまち

多摩センターエリア 「まちづくり」の方向性

居続ける場
暮らしやすい
街並み
(維持・継続)



使い続ける場
多様なやりたい
を活性化させる
(付加価値)



まちにあったらいい！

Design「まちづくり」のシーン

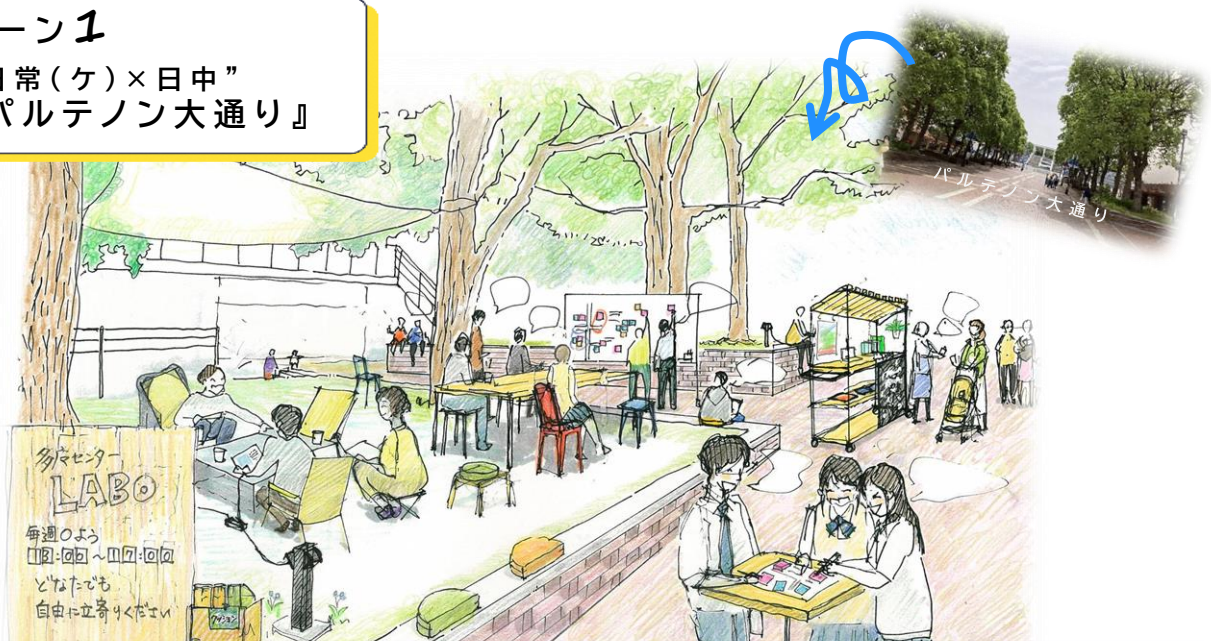
令和4年度にあつめた「まちづくりの声」をもとに、まちに“あったらいいな！”と思うまちづくりのシーンをイメージし、どのような使い方が考えられるか実際の場所にデザインしました。

現在、多摩中央公園・公園内施設を中心としたリニューアル等、より使いやすい場所とするための制度・ルールの検討も進んでいます。実際に定期的・定常的に活用される未来に向け、つかい方の共感を広げるには、実行に移していくことが大切です。令和5年度以降の社会実験では、試行錯誤により、地域の“シーン”となるかどうかを探っていきます。

	日常 ～ケ～	ちょっと特別な日常 ～ケのハレ～	非日常・祭り・イベント ～ハレ～
日中	シーン1：パルテノン大通り シーン2：多摩中央公園	シーン3： ココリア多摩センター前 (パルテノン大通り)	シーン4：三角広場
夜	シーン5：駅前ハスローター		
備考	日常の豊かさ、気軽な利用	やってみたいができる仕組みが整っている	にぎわい、ワクワクがあふれる

シーン1

“日常(ケ)×日中”
『パルテノン大通り』



まちづくり
利用

まちづくり拠点・オープンバージョン・集まる・語る

主な属性

近所の利用者・来街者・若者・学生・事業者・フリーランス

構成要素

屋外テーブル・ベンチ・ホワイトボード(黒板)・日よけタープ・日よけ・ベンチ・電源設備機器

シーン2

“日常(ケ)×日中”
『多摩中央公園』



まちづかい
利用

公園(広場)活用アクティビティ・飲食スペース・くつろぎ、豊かな日常

主な属性

近所の利用者(散歩、遊び、働く人)・来訪者(子育てファミリー、若者、カップル、学生)

構成要素

水辺カヌーサップ・芝生ヨガ・アクティビティ道具器具レンタル・中のカフェと一体運用展開・ベンチ・飲食テーブル・イス・ペット・散歩・ランニング

シーン3

“ちょっと特別な休日(ケのハレ)×日中”
『ココリア多摩センター前』



まちづかい
利用

にぎわい・マルシェ・こどもが遊べる公園・オシャレなカフェ・休憩スペース・公共商業連携や染み出し

主な属性

来訪者(子育てファミリー、学生)・近所のショッピング利用者(周辺住民、隣接市住民)

構成要素

オシャレなマルシェイベント・テナントの屋外出店・キッズパーク・くつろぎスペース・ベンチテーブル・人工芝・日よけ・環境音楽・電源設備機器

シーン4

“非日常(ハレ)×日中”
『三角広場／パークライブラリー』



まちづかい
利用

本やアート芸術・事業者チャレンジ・くつろぎスペース・飲食

主な属性

近所の利用者(散歩、遊び)・来訪者(若者、学生、ファミリー)・イベント事業者

構成要素

ブック・本棚・アート・スクリーン・プロジェクションマッピング
アート・人工芝・緑活用(樹木プランター等)・いろいろな座る
ファニチャー・周辺平場にて飲食用キッチンカー出店

シーン5

“日常(ケ)×夜”
『駅前バスターミナル』



まちづかい
利用

オシャレな食遊オープンバル空間・若者や女性も安心した利用
や交流・事業者チャレンジ出店・交通利用者の立ち寄りたまり

主な属性

交通利用者(若者・学生・社会人)・バスや電車利用周辺住民・
ベンチャー・個人事業者

構成要素

小分けスペース&オシャレな飲食店舗・仮設プレファブ店舗・
チャレンジスペース(短期利用)・商業テナントの染み出し出
店・明るいライティング・舗装装飾変更・ゴミ治安対策・交通誘
導サイン(壁、足元)

Point3

令和5年度からの動き ～「つかう」と「つくる」をつなぐ ～「まちづくり」を活性する多摩ラボ（仮称）

「つかう」と「つくる」をつなぐ

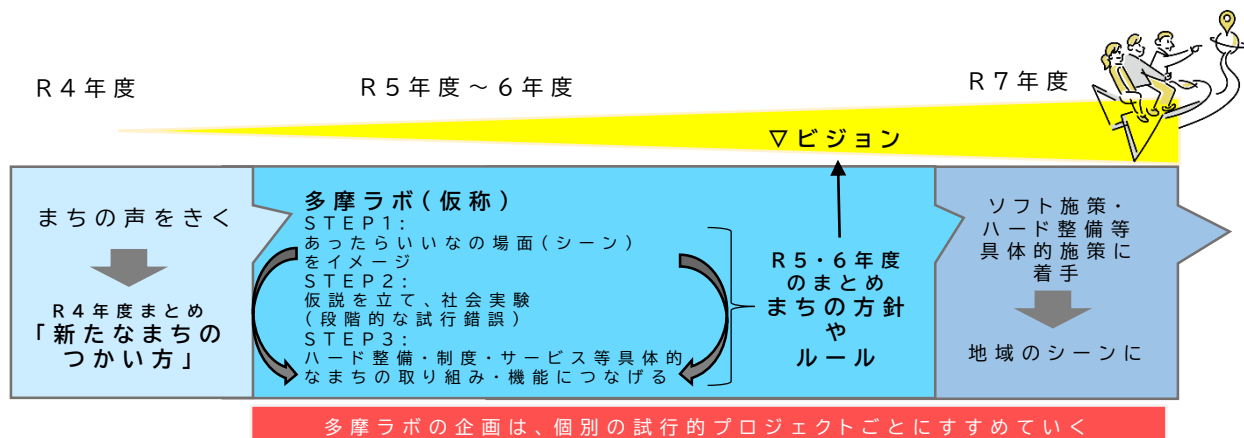
「まちづくり」の方向性を起点に、多摩センターの未来につなげていくため、次に大切なのは、「つかう」側と「つくる」側をつなぐこと。「つかう」側の声は、多種多様であり、市民、企業、団体などその声の主体は、多岐にわたります。公共の場や商業施設などにおける「まちづくり」がまちの政策等につながっていくためには、個人の「つかう」が、仲間や地域を巻き込み、地域に必要な機能と「つくる」側にも相互に共有されることが大切です。



※多摩市は、多摩ニュータウン再生の推進と検討のため、UR都市機構と相互の包括的な連携に関し協定書を締結し、多摩センターのありたい姿の検討のアドバイザーとしての協力を依頼しています。

R5年度以降、「まちづくり」をして一緒にまちをつくっていこう！

令和5～6年度は、ビジョンや多摩センター地区のまちづくりの方向性を考えていきます。ソフト・ハードの具体的施策の実装速度は異なりますが、令和7年度以降には、ハード整備等具体的施策への着手も行っていく予定です。令和5年度以降、オープンイノベーションの場である「多摩ラボ（仮称）」（次ページ（P8）参照）での活動、まちづくり社会実験に参加・参画し、一緒にまちのありたい姿を描いていきましょう。



多摩ラボ（仮称）～やりたいがチャレンジできる場～

多摩ラボとは？

多摩ラボは、「まちづくり」を活性化するため、多摩センターでやってみたいことのチャレンジを後押しする場です。属性にとらわれないざっくばらんな（フラット）会話、市内外の市民・企業・団体などとの交流や出会い、社会実験の企画相談、実際のチャレンジなど、多摩センターで「やりたい」を応援する“場”です。



<場所>

パルテノン多摩5階（西側）
（R5年度中、その後は未定）
※詳細は4月以降、右記Webより発信

<Web>

丘のまち～東京・多摩ニュータウンに暮らす～
※多摩ラボ他、本誌に関する情報を適宜発信していきます。

多摩ラボの機能



STEP1（フラットな対話）
あったらいいあの
場面（シーン）をイメージ



STEP3（未来への期待）
ハード整備・制度・サービス
等具体的なまちの取り組み・
機能につなげる

共感する
仲間づくり

まちへの意識
かかわりの拡張

STEP2（チャレンジ）
仮説を立て、社会実験
（段階的な試行錯誤）



多摩ラボの視点

過去を未来へ #1

今ある資産（道路・公園・施設など）を活かす目線、
わくわくするつかい方の発見

世代を超えて #2

これまで支えてきた世代と次世代とで一緒に考え、
成長するまちのつかい方

地域の中から外から #3

外から人を呼び込むシティプロモーションと、
内なるシビックプライドを醸成するつかい方

問合せ先：多摩市市民経済部経済観光課（042-338-6830）